令和5年度美唄市総合計画審議会「戦略専門部会」

第1回会議概要

# 【会議について】

## 日時 令和5年10月11日(水)　14時～16時

## 場所 美唄市役所市長会議室

## 出席者 【事務局】 　美唄デザイン課長補佐・デザイン係長・猪俣主事・橋本主事 【委員】 　榎本　誠一(北洋銀行支店長)・谷村　明紀(美唄建設業協会会長)・福田　泰陵(北海道銀行支店長) 　古谷野　環(美唄商工会議所会頭)・橋本　良幸(空知信用金庫美唄支店長) 　渡辺　修(観光物産協会会長)・伊藤　智徳(空知商工信用組合理事長)・米田　良克(連合労働相談員) 　小本　幸治(振興局地域創生部長)・土屋　雅博(美唄市農協専務理事)・高田　豊(峰延農協専務理事) 【説明員】 　市長・総務部長・市民部長・保健福祉部長・経済部長・都市整備部長 　市立美唄病院事務局長・教育部長・消防長

## 次第　　1　開会

## 2　議題

## デジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した改訂案について

1. 第2期美唄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
2. 企業版ふるさと納税の実績について

　　　　3　その他

　　　　4　閉会

会議概要（質疑応答/意見）

### デジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した改訂案について

事務局より資料1～資料2により説明

【各委員質疑/意見】

北海道庁でもデジタル田園都市国家構想総合戦略に沿った対応については事務手続き及び検討を進めているところである。美唄市の総合戦略改定案はデジタル施策について明確にするような設計と見受けられることから現況としては充分であると感じる。

### 第2期美唄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

事務局より資料3～資料4により説明

■基本目標１　産業を元気にして安定した雇用を創出する

【各委員質疑】

Ｑ.外国人観光客の宿泊者数に関して、進捗状況が思わしくないように見受けられるが、肌感覚だとこれらの数値以上に増えてきているように感じる。実際の数値として表れてきていないという事か。

Ａ.令和2年度～令和3年度については新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったところである。令和4年度には3か月程度感染症の影響があったため数値としては少ないが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこともあり、インバウンド数が増加傾向となっているところである。

また、冬期間は株式会社アルペンが行っている美唄スノーランドが好調である。今年1月以降3000人ほどの来場となっている。冬期間以外もインバウンドは宿泊をメインに増えているところである。（経済部長）

Ｑ. 管内学生の美唄市内就職割合について、こちらの数値は割合で表されているが、実人数を伺いたい。

Ａ. 令和4年度実績については合計20名が市内就職している。依然として、高等学校進学から市外に出る若者が多く、厳しい状況であると共に、大きな課題と認識している。また、現在美唄市内への就職率の増加を目指すため、地元の仕事の魅力PRについては重点的に取り組んでいるところであり、美唄尚栄高校の在校生に向け、1年生には企業説明、2年生には企業インターンシップ、3年生には合同説明会を開催、以上の取り組みを通じて地元企業の魅力を伝えているところである。また、企業紹介冊子も作成して活用してPRを行っているところである。（経済部長）

【各委員意見】

・肌感覚として、市内は全体的に人手不足であると認識している。管内学生の美唄市内就職割合9.9%という数字は一般的に考えて低い数値であると考える。次期の抜本的な改革に期待したい。

・貴重なご意見として受け止め、数値上昇を目指すための施策を検討する。（経済部長）

**■基本目標２　美唄の魅力を発信し新しいひとの流れをつくる**

【各委員質疑】

Ｑ. 美唄市にふるさと納税をした企業の数について、寄附企業数が増加した要因はどういったことが考えられるか。

Ａ. 企業版ふるさと納税については、

・市HPで寄附の流れやメリットを掲載したこと

・新たに企業版ふるさと納税のPRするためのパンフレットを作成したこと

・個別に企業訪問をしたこと

以上の結果として寄附件数が増加した要因であるものと思われる。（美唄デザイン課長補佐）

Ｑ.移住相談件数のうち移住に繋がった件数について伺いたい。

Ａ.具体的なの実数は不明だが、助成制度の案内から移住につながった件数がKPIに示している移住者数23人である。（美唄デザイン課長補佐）

【各委員意見】

・市内高等学校の入学倍率について、市から補助を出してサポートをしているものと思うが、今後大胆な施策を実施してまちで働く人を増やす必要があると考えている。例えば奈井江町であれば交通費無償化等の施策がある。今後のことになるが強くすすめていただきたい。

・市内高等学校へ支援事業としては大会研修費用の補助をしているところである。抜本的な支援策については引き続き検討していくと共に、少子化問題と一体的に、市内高等学校を選んでもらえるように新たな施策についても検討を行っていく。（教育部長）

**■基本目標３　若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる**

【各委員質疑】

Ｑ.子育てしやすいまちだと思う子育て世代の割合について、令和3年度と令和4年度との比較で数値が約2倍となっている要因は何が考えられるか。

Ａ.給食費の無償化や医療費助成の拡充が満足度の増加につながったと考えており、その他にもこども未来課で行っている子育て世代への支援施策も数値が増加した要因と考える。（保健福祉部長）

Ｑ.公園の満足度が増加しない要因について考えられることはあるか。

Ａ.他の地方自治体では大型の遊具がある公園は市民からの満足度が高いように分析しており、美唄市には大規模遊具は少なく、小規模な遊具が多いことが原因と考えている。こういった点についても再検討を行い、公園の満足度の増加を目指していく。（都市整備部長）

Ｑ．北海道働き方改革推進企業認定制度について、公共事業を受注する企業としてはこのような制度を活用しているかどうかが評価につながる側面があるため、制度の周知を各企業に対して実施しているのか伺う。

Ａ.特段の周知をしていない。商工会議所と連携して周知に努めていく。（経済部長）

**■基本目標４　人口減少下においても、誰もが幸せに暮らせるまちをつくる**

【各委員質疑】

Ｑ.まちづくり市民アンケートは何件に向けて発送しており、例年の回収率はどの程度となっているのか伺いたい。

Ａ.1,200件に送付しており、回収率については例年約30％の回収率である。

### 企業版ふるさと納税の実績について

事務局より資料5により説明

【各委員質疑/意見】意見なし

■その他

【各委員質疑/意見】意見なし

●まとめ

【部会長】

　本日委員の皆様から出た意見については、事務局で整理をお願いします。

以　上